様式１

港区立三田中学校

令和３年度　授業改善推進プラン

１　区学力調査の結果を踏まえた課題

国語	全学年とも、多くのカテゴリーで全国平均を上回ったが、改善点もある。 １年生は、「話すこと・聞くこと」の領域において課題のある生徒が多くいた。各単元内でグループ・ディスカッション等の話し合い活動を工夫して取り入れたい。２年生については、文法・語句に関する問題で全国平均を下回っている。出題された問題と照合すると、文に含まれる単語を数える問題、漢字の読み方、漢字の部首に関する問題が全国平均に届いていない。３年生については、漢字を読む問題が全国平均を下回る。考査では漢字の書き取り問題を主とするが、読み方や部首についても授業等で力点を置きたい。
社会	１・２年生の目標達成率は「全国平均とほぼ同程度でおおむね良好」という結果であった。１年生は小学校での学習の成果から基礎基本事項は平均的に身に付いており、中学校での学習に主体的に取り組むよう継続した指導を進めること、２年生は授業を終えてから時間がたった学習内容のスコアが全体的に低くなる傾向があるため、総合的な復習に取り組むことが課題である。３年生は「全国平均を上回る大変良好な状況」という結果であり、継続して主体的な学習に取り組むよう指導を進めていく。
数学	１・３年生の目標達成率は「全国平均とほぼ同程度でおおむね良好」。また、２年生は「全国平均を上回り大変良好な状況」という結果であった。３年生の領域別では、「数と式」、「図形」の部分が標準スコアを下回っているため、改善が必要だと考える。どの学年も関数分野に関してはおおむね良好なため、引き続き、興味・関心をもてる授業を展開していく。また、図形の分野ではICT機器等を使い視覚的に学びやすい環境を作っていく必要がある。今後も生徒が主体的に学習に取り組めるように指導をしていく。
理科	１・３年生の目標達成率は「全国平均とほぼ同程度でおおむね良好」。また、２年生は「全国平均を上回り大変良好な状況」という結果であった。全学年ともバランスの良い学力の定着が見られる。その中でも、全体的に知識の定着が他の観点に比べると低い傾向にあるため、既習事項を関連する単元で復習し、主体的に学習に取り組めるように、積極的な問題や課題の提示、アクティブラーニングの授業形態など、工夫して授業を進めていく。１年生に関しては、今後の授業において、さらに深く観察、実験の知識・技能を定着させていく。
外国語	２年生・３年生とも、領域別・観点別で正答率は目標値および区平均を上回っている。問題の内容別に見ると、対話文の応答に関するリスニング、さまざまな英文の読み取りおよび語彙の知識・理解において目標値を大きく上回っている。小問別では、２年生では、基本単語の知識や日常使用する英問の作成は十分だが、語形・語法・文法により平均を下回る生徒、内容により要点把握ができていない生徒が目立った。３年生では、語形・語法が定着していない生徒や英文の作成が苦手な生徒がやや多く目立った。２年生・３年生ともに、場面に合う英文の作成が苦手な生徒が見られた。

２　各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	「知識・技能」の領域について、底上げを目指す。また「思考・判断」と「学びに向かう力」の向上をも図り、国語への学習意欲が向上するように授業に取り組む。	「知識・技能」の学力を向上させるため、学力調査で結果の出なかった漢字の指導に力点を置く。漢字学習といえば書くことに特化しがちであるが、教科書で漢字を学習する単元で、読みや部首など漢字についての総合的な力の向上を図りたい。併せて意欲をもって学べるように、単に講義を聞き暗記する作業に陥らないよう授業を工夫したい。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	基礎基本を中心に徹底した知識・技能の習得を目指した学習に取り組むこと。その上で思考・判断・表現の向上を目指していくこと。	知識・技能については「教える」学習を重視しつつ、基礎的基本的な学習内容を「生徒自ら主体的に学んでいく」ような課題学習に取り組ませる。そのために生徒自身の力で進められるワークシートの開発と、その実践を行えるよう、担当教員による研修を集中的に行っていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
数学	基礎基本である「知識・技能」の向上、その上で実生活に生かすことのできる「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。	全領域において、生徒が興味を持つための授業改善が必要である。また、ICT 機器を利用し、一つの問題に対して、多角的な視点で考えられる授業を展開する。その中でグループワークや教え合い学習を通して、他者の意見を取り入れ、さらに自分の考えを発展させられるように指導していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	「知識・技能」の習得と、「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす。その上で、学んだことを生かして主体的に生活に生かしていく姿勢を育む。	全単元において、目的意識を明確にした観察・実験などの体験活動の機会を多く作り、その結果を丁寧に考察させる。アクティブラーニングを意図的に組み入れ、情報を他と共有させることにより、新たな発見や問題点を見出させ、今後のより良い生活へとつなげる一助とする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	「知識・技能」の確実な習得とともに、「思考力・判断力・表現力」の育成を、様々な体験活動を通して目指していく。	多様な音楽に触れる機会や、生の演奏を聴く機会を設定し、音楽への興味関心を高めていく。各分野を関連させながら音楽の諸要素の理解を深め、構造的に音楽をとらえ表現・鑑賞できるよう、生徒の資質・能力の育成を目指す。活動内容に合わせてタブレットを活用していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	・造形的な視点を豊かにし、創造的に表現する力。 ・美術を愛好し、心豊かな生活を創造していく力。	・アイデアスケッチを通して、自らの制作意図を考え, 言葉で説明することで主題を明確にし、表現につなげていく。 ・タブレット等の活用で作品鑑賞の機会を増やし、美術文化への理解を深め、また、生活と美術の関わりに興味をもたせる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	「知識・技能」及び、「思考力・判断力・表現力」の資質・能力の育成に重点を置く。	確かな「知識・技能」の習得を目指しながら、各単元において、グループ活動を積極的に取り入れ、生徒が主体的に学び合う時間を確保することで「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。また、運動時間を確保し、体力向上を目指す。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
技術・家庭	課題解決などの実習に基づいた「知識・技能」の育成と「学びに向かう力」の育成を目指す。	生徒間での情報交換や、題材と結び付きのある教科と連携が取れる授業を行う。また、生活との関連を意識した課題で振り返りを行い、学習事項と実生活との結び付きを意識させる。ものづくりや作業では机間指導を行い、すぐに質問できる態勢を整え作業進度に応じた指導を行う。進度の速い生徒には応用の課題を設ける。作品や学習成果を発表する場を設け、個人の作品に対する愛着を深める。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
外国語（英語・国際）	語句・語形・文法の習得 （知識・技能） 学んだ語句・英文の活用 （思考・判断・表現）	既習の語彙をリサイクルした活動を毎時継続的に行い定着を図る。文法面では特に動詞の形・変化に留意し、口頭練習を徹底し音声面での理解と定着を図る。アクティビティ等で文構造を意識して英文を使用することで、学んだ英文を活用する力を身に付ける。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	一面的な物事のとらえ方ではなく、「物事を広い視野から多面的・多角的に考え」る力を育てること。	教科書を基本としながら、生徒がさまざまな視点でとらえ、考えを深めていけるような教材の開発を学年を中心に行い、そのことの情報交換がスムーズに行えるよう、資料の配布、閲覧ができるようにファイリングをシステム化する。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	「社会に貢献する能力」、「社会の中で自己を生かす能力」、「人間関係を形成させる能力」の育成を目標とし、社会を生きていくために必要な能力を身に付ける。	学級活動や委員会活動、生徒会活動、学校行事など学校における様々な取り組みにおいて、左記の能力の育成を目指す。他者との協働、周囲への寛容な心情と振る舞い、公共のものを尊重する心の育成などをこれらの活動を通して涵養することに努める。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	課題解決、情報収集、情報活用、コミュニケーション、自己表現の各能力を高める。自己理解・自己管理能力の育成として自己の役割を理解し、忍耐力を高める。	様々な学校行事を軸にした取組や学校生活の中で、自ら考え、自主的に行動できる自立した生徒の育成を目指す。調べ学習による情報収集・処理能力・発表する能力の育成、トレーニングによる自己表現力・コミュニケーション能力の育成、ポートフォリオ評価（活動記録等のファイリング）を行う。活用資料をファイリングし、共有・活用する。